

大町中学校 校内研究計画

(1) 研究主題

「9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の創造」
～キャリア教育を中心とした系統的なカリキュラム作成と指導体制の確立を通して～

(2) 主題設定の理由

本校では、平成20・21年度の2年間、国立教育政策研究所教育課程研究センターの小・中連携教育実践研究事業の研究委嘱を受け、研究主題「共に学び合い、自己実現を図ろうとする児童生徒の育成 ～小・中9年間を見通した学習習慣の定着と生活習慣の確立の取り組みを通して～」の下、小・中連携に取り組んできた。基本的な学習習慣や生活習慣を身に付けさせるための系統表の作成と活用、大町型授業の実践、乗り入れ授業の実施、児童生徒の交流などを通して、連携が少しずつ深まり、一定の成果を上げることができた。

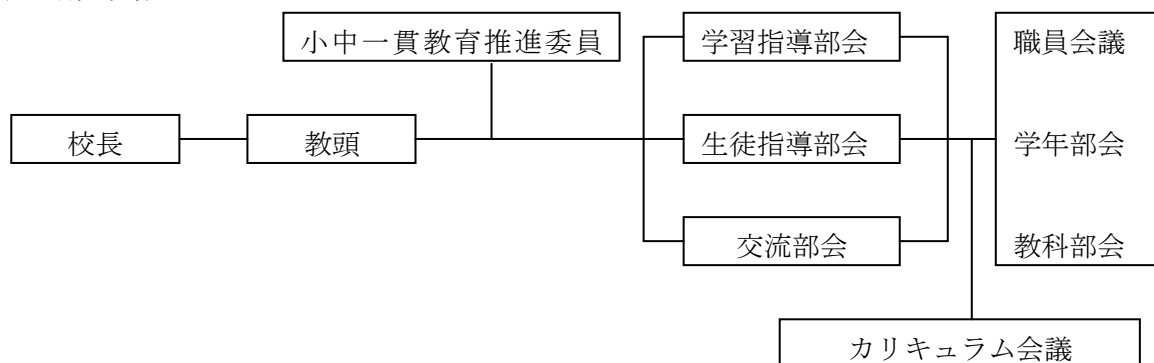
本校と大町小は、次年度から隣接型小中一貫校としてスタートする。そこで、研究主題を「9年間の学びつなぐ小中一貫教育の創造」と設定し、下記に重点を置き、開校に向け準備を進める。

- ・「キャリア教育」を小中一貫教育の中核にする。
- ・4－3－2制の教育区分にする。
- ・小学校と中学校の教職員が一体となった指導体制をとる。
- ・異年齢での交流活動を充実させる。
- ・家庭や地域との連携を強化する。

今年度は、これまでの研究成果と昨年度の学校評価の分析結果をふまえ、「キャリア教育」の視点から教育活動を見直さなければならない。特に、9年間を見通した系統的なカリキュラム作成や指導体制を確立する必要がある。そこで副主題を「キャリア教育を中心とした系統的なカリキュラム作成と指導体制の確立を通して」とした。

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの系統的なカリキュラム作成と生徒指導、教育相談、特別支援教育などの指導体制を確立することで、研究主題に迫りたいと考える。

(3) 研究組織



(4) 研究内容

- ① 児童生徒一人一人の基礎的・基本的な学習内容を定着させるために、9年間を見通した学習指導の在り方を研究する。
- ② 基本的な生活習慣や規範意識などの育成を図るために、9年間を通じた指導体制の在り方を研究する。
- ③ 小中一貫校ならではの魅力ある地域連携の在り方を研究する。

(5) 主な取り組み

- ① キャリア教育を中核として、9年間の系統的なカリキュラムを作成する。
- ② 大町型授業の研究授業を実施するとともに、系統的な学力向上の方策を決定、実施する。
- ③ 外国語活動と数学を中心として、出前授業を実施する。
- ④ 生徒指導、教育相談、特別支援教育など系統的な指導体制を確立する。
- ⑤ 児童生徒の交流活動、地域の学校支援・協力を推進する。
- ⑥ 教育区分を意識する活動を設けるとともに、学校行事の合同開催に向けて検討を行う。

(6) 研究計画

月	主 な 内 容	小・中合同
4	一貫校開設の関係者の顔合わせ	○
	校内の研究組織の確立	
6	小中一貫教育専門部会（各部の業務計画で）	○
7	研究授業及び授業研究会	○
	校内小中一貫専門部会（夏季休業中の取り組みの確認）	
8	小中一貫教育専門部会（各部の業務計画で）	○
	小中一貫教育専門部会（3回程度・カリキュラム作成）	○
9	校内小中一貫専門部会（カリキュラムの共通理解）	
	小中一貫教育専門部会（各部の業務計画で）	○
	校内全体会（生徒指導、教育相談連絡会）	
10	全体会（カリキュラムの共通理解）	○
11	研究授業及び授業研究会（学校訪問）	
	小中一貫教育専門部会（各部の業務計画で）	○
12	研究授業及び授業研究会	
	校内全体会（一貫校開設に向けて各部より提案）	
1	小中一貫教育専門部会（各部の業務計画で）	○
2	全体会（一貫校開設に向けて各部より提案）	○
3	校内一貫校教育専門部会（校内の最終確認）	
	全体会（一貫校開設に向けて確認）	○